

平成29年度第2回本庄市総合教育会議 次第

日 時 平成29年11月1日（水）
午後2時から3時30分（予定）
場 所 本庄市役所504会議室

1. 開 会

2. 市長挨拶

3. 教育長挨拶

4. 議 題

（1）次期教育大綱（案）について（協議）

資料1－1
資料1－2
資料1－3
資料1－4

（2）学力・体力の向上について（報告）

資料2

（3）今後の総合教育会議において協議すべき事項について
（意見交換）

5. その他

6. 閉 会

【配布資料】

資料1-1：次期教育大綱（案）について（A4両面1枚）

資料1-2：本庄市教育大綱（案）（A4両面1枚）

資料1-3：本庄市教育大綱（A4両面1枚）

資料1-4：次期本庄市総合振興計画（素案）一部抜粋（A4冊子）

資料2：学力・体力の調査結果等（A4冊子）

次期教育大綱（案）について

1. 教育大綱の趣旨

教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3の規定に基づき策定するものです。

その内容は、地方公共団体の長は、総合教育会議において、教育委員会と協議して、教育基本法第17条第1項に基づき策定される国の教育振興基本計画における基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策についての大綱を策定することと規定されています。

この規定に基づき、本市でも、平成28年4月に「本庄市教育大綱（平成28年度～平成29年度）」（資料1-3）を策定しています。

2. 次期教育大綱（案）（資料1-2）の構成・内容について

全体の構成及び基本理念の主題部分は、現在の教育大綱を踏襲し、それ以外の部分については、現大綱と同様に本市の最上位計画である総合振興計画（次期）に基づいた内容としています。（※前回の会議で協議済）

＜全体構成＞・「基本理念」（表面）と「基本方針」（裏面）の二段構成（現大綱踏襲）。

＜全体内容＞・本市の偉人である塙保己一の理念及び現在策定中の「次期本庄市総合振興計画（前期基本計画：平成30年度から平成34年度）」の教育文化分野の部分（資料1-4）に基づいて策定。



《基本理念》 ①主題：「世のため、後のための教育」

→現大綱踏襲。

※塙保己一の理念である「世のため、後のため」のフレーズは、次期総振の基本構想で掲げる「本市の目指す将来像」の中でも、「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄
～世のため、後のため～」という形で使用。

②副題：「～未来を拓く人を育み、歴史と文化の薫るまち～」

→次期総振の教育文化分野の政策大綱のフレーズ。

③塙保己一についての記載部分：基本的には現大綱を踏襲するが、副題に沿う形にするため「未来へ飛躍する人材」（現大綱）→「自ら未来を切り拓くことのできる人材」へ一部変更。

《基本方針》 ① 6つの柱立て：次期総振の教育文化分野における6つの「分野別施策大項目」と同一。

②各柱立ての具体的文言：上記の各施策大項目に掲げる内容（目指す姿、現況と課題、施策の取組内容（＝施策中項目）等）から要点部分を抽出し整理。

3. 次期教育大綱（案）の期間について

・平成30年度から平成34年度の5年間（※前回の会議で協議済）

4. 今後のスケジュールについて

次期教育大綱策定までのスケジュール（予定）

平成29年11月1日	第2回総合教育会議 ・大綱（案）策定
平成29年11月14日	庁議（付議） ・大綱（案）策定及びパブリックコメント実施について
平成29年11月17日	市議会全員協議会 ・大綱（案）策定及びパブリックコメント実施について
平成29年12月1日	広報ほんじょう12月号 ・大綱（案）パブリックコメント実施の周知
平成29年12月4日（月） ～平成30年1月4日（木）	大綱（案）パブリックコメント実施（素案の公表）
平成30年1月17日	第3回総合教育会議 ・大綱（案）パブリックコメント実施結果について 他
平成30年1月23日	庁議（各部連絡事項） ・大綱（案）パブリックコメント実施結果について
平成30年2月1日	広報ほんじょう2月号 ・大綱（案）パブリックコメント結果閲覧の周知
平成30年2月5日（月） ～3月5日（月）	大綱（案）パブリックコメント結果閲覧
平成30年2月上旬	大綱策定（完成）
平成30年2月中旬	市議会全員協議会 ・大綱配布（パブリックコメント結果添付）
平成30年4月	大綱の公表

【参考：現在の教育大綱策定時のパブリックコメント実施結果】

期 間：平成27年12月7日～平成28年1月8日

提出人数：3人

提出件数：13件

提出内容：大綱全般2件、基本理念：2件、基本方針1：4件（うち修正実施1件）、
基本方針2：2件、基本方針3：1件、基本方針5：2件

本庄市教育大綱（案）

（平成 30 年度～平成 34 年度）

基本理念

世のため、後のための教育

～未来を拓く人を育み、
歴史と文化の薫るまち～

本市は、江戸時代の盲目の国学者である塙保己一
生誕の地です。

本市の教育は、塙保己一の遺したことば「世のた
め、後のため」の理念のもと、自ら未来を切り拓く
ことのできる人材を育成します。

基本方針

1 確かな学力と自立する力の育成

社会の激しい変化に対応し、多種多様な課題を解決できる確かな学力と、夢や志を持ち主体的・意欲的に自らの人生を切り拓く力を持った子どもたちの育成に、学校・家庭・地域が一体となって取り組みます。

2 豊かな心と健やかな体の育成

互いの生命と人権を尊重し他者の痛みを共有できる豊かな心を持つとともに、体力の向上を図り運動に親しむ、心身ともに健やかな子どもたちを育成します。

3 教育環境の整備

子どもたちが快適かつ安心して学習に取り組めるよう、学校支援体制の強化や学校施設の計画的整備、教育機器の充実などの教育環境の整備を推進します。

4 生涯学習の活発化

誰もが豊かで充実した人生を送れるよう、多様なニーズに対応した学びの場の提供と情報発信を行い、学びの成果を発揮できる機会の創出を図ることで、生涯学習と芸術文化活動の活発化を推進します。

5 文化財の保護と活用の推進

長い歴史と伝統を持つ本市の貴重な財産である文化財を適切に保護し、未来へと継承しつつ、これらを学び親しみ、また市内外にその魅力を広く発信していくとともに一層の有効活用を図ります。

6 生涯スポーツ・レクリエーションの促進

誰もがいつまでも心身ともに健康で生きがいを持って暮らせるよう、「市民一人1スポーツ」を目標として、生涯スポーツ・レクリエーションを促進します。

本庄市教育大綱

(平成28年度～平成29年度)

基本理念

世のため、後のための教育

～明日を拓く人を育み、

魅力ある文化が育つまち～

本市は、江戸時代の盲目の国学者である塙保己一
生誕の地です。

本市の教育は、塙保己一の遺したことば「世のた
め、後のため」の理念のもと、未来へ飛躍する人材
を育成します。

基本方針

1 創造性と確かな学力を育む教育の推進

次代を担うかけがえのない子どもたちが、これからの厳しい時代を、自らの力でたくましく切り拓くため、学校・家庭・地域が連携し、創造性と確かな学力を育む教育を推進します。

2 人権を尊重する教育と心豊かな人づくりの推進

市民一人ひとりが社会の一員として互いの人権を尊重し、感謝と思いやりの心を持った、他者の痛みを共有できる、心豊かな人づくりを推進します。

3 教育環境の整備

教育内容、教育方法の多様化に円滑に対応し、安全で安心して学べる良好で質の高い教育環境の整備を行います。

4 生涯学習の活発化

あらゆる世代の人々が生涯にわたって学び続け、自らの人生を豊かなものとさせるとともに、学びの成果を活かせる社会の実現に向け、生涯学習の活発化と芸術文化活動の推進を図ります。

5 文化財の保護と活用の推進

長い歴史と伝統を持つ本市の貴重な文化財を未来に継承し、これらを学び、親しみ、市内外に広く発信していきます。

6 生涯スポーツの促進

市民の誰もが気軽に身体を動かし、健全な心と体の維持を図るため、本市のスローガンである「市民一人1スポーツ」を目標に掲げ、生涯スポーツ・レクリエーションを促進します。

第 2 章 教育文化分野

未来を拓く人を育み、 歴史と文化の薫るまち

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 確かな学力と自立する力の育成 |
| 2 | 豊かな心と健やかな体の育成 |
| 3 | 教育環境の整備 |
| 4 | 生涯学習の活発化 |
| 5 | 文化財の保護と活用の推進 |
| 6 | 生涯スポーツ・レクリエーションの促進 |

施策大項目)

1 確かな学力と自立する力の育成

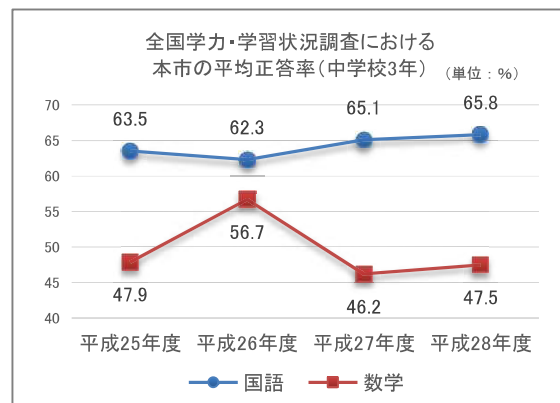
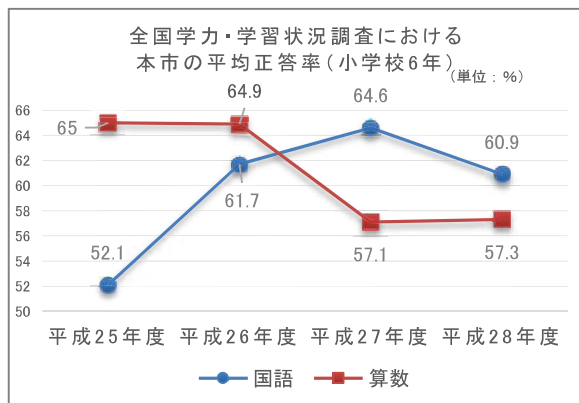
めざす姿

- 「確かな学力」が子どもたちの身についています。
- 学校・家庭・地域が一体となって子どもの育成に取り組んでいます。

成果指標と目標値

成果指標	現状値	目標値
全国学力・学習状況調査における、「国語」「算数」の本市の平均正答率（小学校6年）	国語 60.9% 算数 57.3%	国語 65% 算数 61%
全国学力・学習状況調査における、「国語」「数学」の本市の平均正答率（中学校3年）	国語 65.8% 数学 47.5%	国語 70% 数学 52%

学力の現状



現況と課題

【施策に係る市民満足度：「創造性と確かな学力を育む教育の推進」18.4％】

- ・グローバル化が進展する中、人口が減少し、経済規模の縮小も懸念されるなど、社会の変化は激しくなっています。子どもたちの10年後を考えると、今以上に社会の変化は激しくなり、また、経験したことのない未知なる課題への対応が求められる場面が多くなることも予想されます。さらに、人工知能の発達により、今ある仕事の多くがロボットに置き換えられるとの予想もあります。
- ・この時代に対応し、夢や志を持ち、主体的に自らの人生を意欲的に切り拓き、自立していくためには、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学び続けられる力（学習意欲）」を統合したいわゆる「確かな学力」の育成や自立につながる進路意識の高揚がますます重要となります。

- ・また、本市の状況を全国学力・学習状況調査の結果で見ると、進路意識などは高い傾向にありますが、学力面では国語、算数・数学ともに全国平均を数ポイント下回っており、学力の向上が大きな課題です。
- ・これらの課題を解決し、確かな学力と自立する力を育成するためには、これまでの「教師がすべてを説明して、それを子どもが覚える」授業スタイルを「子どもたちが、自ら考え判断・行動し（主体的）、仲間と話し合い協力し（対話的）、課題を解決する」授業スタイル（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）へ改善することが必要です。また、家庭や地域との連携・協働により「地域とともにある学校づくり」も重要となります。

めざす姿の実現に向けた施策体系

2-1 確かな学力と自立する力の育成

- 1 指導方法の工夫改善と確かな学力の育成
- 2 家庭や地域と連携し、地域とともにある学校づくりの推進
- 3 進路指導・キャリア教育の推進
- 4 教職員の資質能力の向上
- 5 特別支援教育の推進

施策中項目） 施策の取組内容

1 指導方法の工夫改善と確かな学力の育成

- ・指導方法の工夫改善を進め、学ぶ意欲を高め、基礎基本の徹底を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成に取り組み、学力の向上を図ります。
- ・小中学校の連携を推進し、9年間を見通した教育を推進します。
- ・児童生徒を支援する補助教員の配置や学習の機会の充実を図り、個に応じた指導を推進します。
- ・小学校での英語教育など今日的な教育課題への対応を図っていきます。

2 家庭や地域と連携し、地域とともにある学校づくりの推進

- ・学校の経営方針を明示するなど、家庭や地域の人々へ積極的に情報の発信を行います。また、家庭や地域との連携や協働をさらに進め、地域とともにある学校づくりを進めます。

3 進路指導・キャリア教育の推進

- ・児童生徒一人ひとりが進路に対する目的意識を高めるとともに、児童生徒一人ひとりに夢や志を育てる教育活動を進めます。
- ・様々な職場の見学や体験等をとおして、職業には貴賤がないことや社会の一員としての役割を果たすことなどの望ましい勤労観や職業観を育てます。

4 教職員の資質能力の向上

- ・学校の課題研究等の研修会に積極的に指導者等を派遣するなどの支援をしていきます。
- ・学力向上をはじめとする様々な教育課題解決に結びつく研修を実施し、教職員の資質の向上を図ります。

5 特別支援教育の推進

- ・児童生徒一人ひとりが、社会で自立できる自信と力を育むことができるよう、合理的配慮に基づく特別支援教育的手法を取り入れた教育活動を推進します。
- ・児童生徒の障害に合わせた特別支援教育を推進するとともに、きめ細やかな就学支援を推進します。

協働による取組

- ・地域に開かれた学校づくりを推進し、学校の教育力を向上させるため、地域ボランティアや地域の各種団体、関係機関等を加え組織された「学校応援団」の活動を継続するとともに、さらに充実を図ります。また、開かれた学校づくりを一歩進め、家庭・地域との連携・協働をさらに強め、「地域とともにある学校づくり」を目指したコミュニティ・スクールを導入していきます。

関連計画

計画名	計画期間	概要
本庄市教育大綱	平成30年度～	市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定める大綱

施策大項目)

2 豊かな心と健やかな体の育成

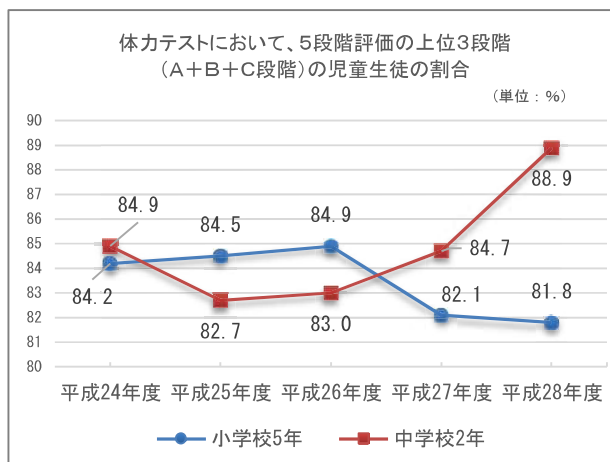
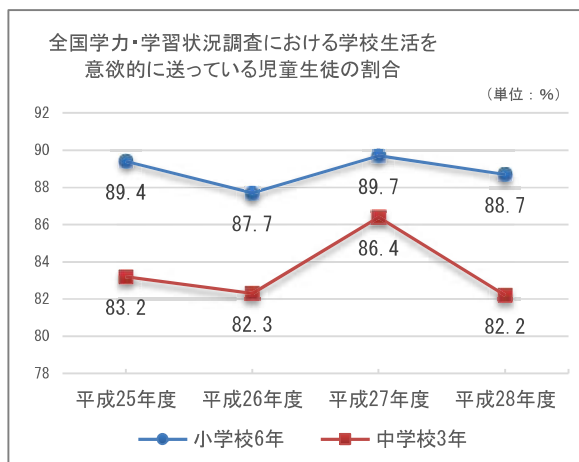
めざす姿

- 児童生徒一人ひとりが人権意識を十分に理解し、明るくいきいきと学校生活を送っています。
- 体力の向上が図られ、健やかな体が育まれています。

成果指標と目標値

成果指標	現状値	目標値
全国学力・学習状況調査における学校生活を意欲的に送っている児童生徒の割合 (学校へ行くのが楽しいと答えた児童生徒の割合)	小学校6年 88.7% 中学校3年 82.2%	小学校6年 90% 中学校3年 85%
体力テストにおいて、5段階評価の上位3段階(A+B+C段階)の児童生徒の割合	小学校5年男女 平均81.8% 中学校2年男女 平均88.9%	小学校5年男女 平均85% 中学校2年男女 平均90%

豊かな心と健やかな体づくりの現状



現況と課題

【施策に係る市民満足度:「人権を尊重する教育と心豊かな人づくりの推進」21%】

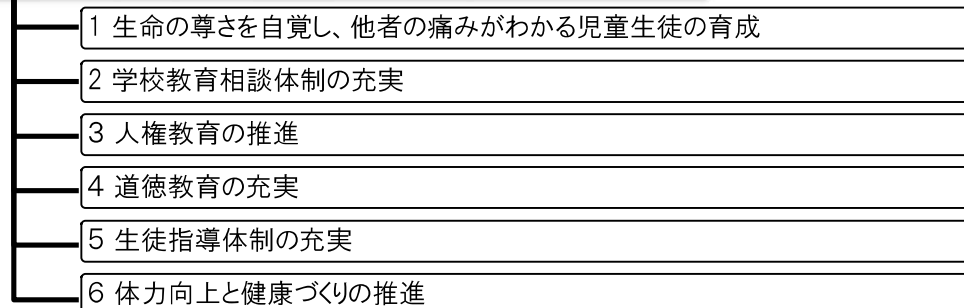
- ・近年、家庭の教育力の低下や地域コミュニティの弱体化とともに、規範意識の低下や人間関係の希薄化が指摘されています。さらに、非行・問題行動の低年齢化やインターネット等での誹謗中傷なども大きな社会問題となっており、いじめや不登校の問題はより深刻化・重大化する傾向が見られます。
- ・本市においては、非行・問題行動は減少傾向にあり、全国学力・学習状況調査の質問紙の結果

でも、学校生活に対する満足度は全国平均より高く、落ち着いた学校生活を送っている状況が伺えます。しかし一方で、いじめや不登校の問題は、本市においても解決しなければならない重要な課題でもあります。

- この課題を解決するためには、道徳性の涵養を図る道徳教育や、人権の意義・内容や重要性について理解を図る人権教育の充実を図り、生命の尊さを自覚し、他者の痛みがわかる子どもたちを育成し、「いじめをしない・させない・見逃さない」意識を醸成するとともに、子どもたちに寄り添い、支援ができるよう教育相談や生徒指導体制の充実を図ることが必要です。
- 子どもたちの体力面では、日常的な身体運動が減少しており、運動する子どもと運動しない子どもといった「運動の二極化」の問題が指摘されています。
- 本市においては、全国体力・運動能力等調査結果を見ると、子どもたちの体力合計点は、全国平均より数ポイント高く、体力は高い結果となっています。しかし、体力合計点を5段階に分けた結果では、上位3段階の割合は高いものの、まだ体力がしっかり身についていない子どもたちも見受けられます。今後さらなる体力の向上を図り、運動に親しむ子どもたちを育成するため、体育授業や体育的活動の充実、健康教育の充実が必要となります。

めざす姿の実現に向けた施策体系

2-2 豊かな心と健やかな体の育成



施策中項目) 施策の取組内容

1 生命の尊さを自覚し、他者の痛みがわかる児童生徒の育成

- 学校間の連携・交流、ボランティア活動などの社会体験、自然体験、高齢者や障害のある人等との交流活動など、豊かな体験活動を通じて、自他の生命を尊重し、他者の痛みを共有できる心を醸成し、豊かな人間性を育みます。

2 学校教育相談体制の充実

- 各中学校に配置された「さわやか相談員」を活用し、小中学校が連携した教育相談体制の充実を図ります。また、「子どもの心の相談員」を継続配置し、相談に行けない児童生徒・保護者の電話相談を実施します。
- 「学校生活アンケート（学級集団アセスメント）」等を実施し、よりよい学校生活やあたた

かい人間関係づくりを進め、いじめ・不登校の未然防止や解消を目指します。

3 人権教育の推進

- ・学校の全教育活動をととして、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒を育てます。
- ・児童生徒が、自他の生命や人権を尊重し、他者の痛みがわかる人権感覚を育む教育を進めていきます。

4 道徳教育の充実

- ・特別な教科「道徳」の時間を核として、全教育活動をととして、道徳教育の推進を図り、豊かな心を育みます。
- ・無言膝つき清掃やボランティア活動など、自己有用感※を高める教育活動を進めます。
- ・埴保己一の生き方に学ぶ学習を推進します。

5 生徒指導体制の充実

- ・校内生徒指導体制を確立するとともに、あらゆる教育活動をととして、積極的な生徒指導を推進するとともに、学校・家庭・地域や関係機関が一体となって、非行・問題行動の防止に取り組みます。

6 体力向上と健康づくりの推進

- ・運動の楽しさや喜びを味わうことのできる授業を実践し、運動に親しむ児童生徒を育てるとともに、体育的活動の充実を図り、体力の向上を図ります。
- ・健康・安全に関する学習や家庭と連携した基本的生活習慣の定着により、生涯にわたる健康づくりを進めます。

関連計画

計画名	計画期間	概要
本庄市教育大綱	平成30年度～	市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定める大綱

※ 自己有用感:「自分がしたことを感謝されてうれしかった 自分は頼りにされている 自分もだれかの役に立っている みんなから認められている」という感情「承認、貢献、存在感」が3要素

施策大項目) 3 教育環境の整備

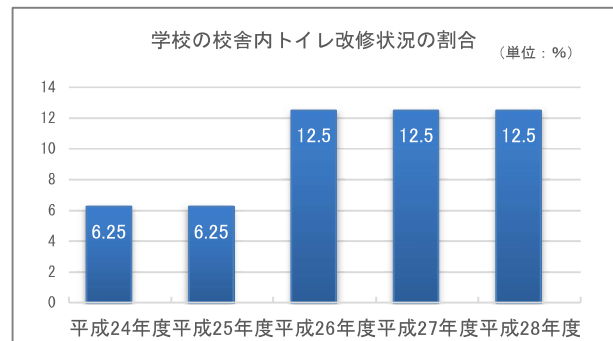
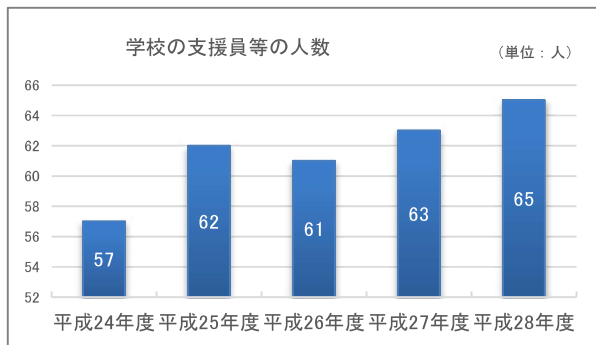
めざす姿

- 児童生徒が安心して学校生活が送れるよう、適切な支援員等の配置や登下校の安全対策が行われています。
- 衛生的で明るい教育環境が整備されています
- グループ学習や双方向型の授業を実施するための ICT※環境の整備が進んでいます。

成果指標と目標値

成果指標	現状値	目標値
学校の支援員等（特別支援補助教員、日本語指導教室支援員、学校補助教員、さわやか相談員、学校生活支援員、ふれあい教室相談員・支援員等）の人数	65 人	70 人
学校の校舎内トイレ改修状況の割合	12.5% (2/16 校)	100% (16/16 校)

教育環境の現状



現況と課題

【施策に係る市民満足度：「教育環境の整備」29.6%】

- ・多様化した教育内容や教育方法、教育課題等に対応し、児童生徒が安心して学校生活が送れるよう、支援員や相談員など学校を支援する体制を整備し、学習環境の充実を図ることが求められています。また、児童生徒の登下校時の安全を守るために、自治会・PTA 等と連携した安全対策を推進する必要があります。
- ・学校施設の整備については、児童生徒の安全の確保を優先して老朽化した校舎の建替えや耐震

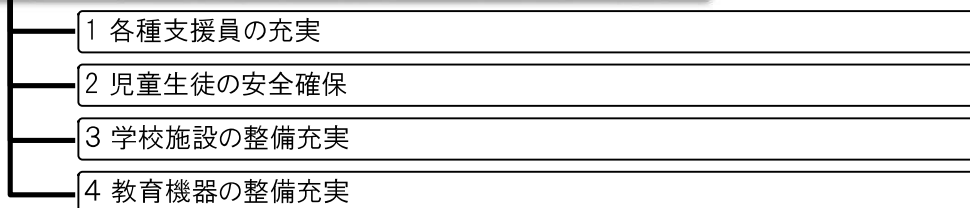
※ ICT：Information and Communication Technology の略語で、情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称

補強工事を進め、平成26年度に耐震化率100%を達成しました。また、平成27年度には普通教室と特別教室へエアコン設置が完了するなど、施設環境の改善を進めています。児童生徒が落ち着いた学校生活を送り、学習に集中できるよう、今後も引き続き、衛生的で明るい学校施設への整備を計画的に進めていく必要があります。

- 急速に社会のICT化が進む中で、児童生徒の情報活用能力の育成と分かりやすく理解が深まる授業を実現するため、児童生徒によるグループ学習や教師と児童生徒間の双方向型学習などに対応できるよう、学校におけるICT環境の整備が求められています。

めざす姿の実現に向けた施策体系

2-3 教育環境の整備



施策中項目) 施策の取組内容

1 各種支援員の充実

- 多様化した教育内容や教育方法、教育課題等に対応するため、支援員等を各学校の実態に応じて配置し、学習環境の充実を図ります。(特別支援補助教員、日本語指導教室支援員、学習補助教員、さわやか相談員、学校生活支援員、ふれあい教室相談員・指導員等)

2 児童生徒の安全確保

- 児童生徒の登下校における安全を確保するため、学校・自治会・PTAとの連携・協力を推進し、地域全体で児童生徒の安全を確保する取組を行います。また、通学路の安全点検や見守りボランティアによる登下校の見守りを推進します。
- 遠距離通学の児童生徒にはスクールバスやデマンド交通※、あるいはタクシーの利用などにより登下校の安全確保を図ります。

3 学校施設の整備充実

- 衛生的で明るい教育環境を目指し、学校施設の充実のため、トイレ環境の改善のための改修工事を計画的に推進します。また、内装の木質化改修の実施方法について検討していきます。

4 教育機器の整備充実

- 教育内容の充実や教育効果を高めるため、教材・教具などの整備に努めます。また、グループ学習や双方向型学習を推進するため、パソコン教室等の教育機器を整備し、学校のICT環境の充実を図ります。

※ デマンド交通：電話予約など利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の一形態

施策大項目)

4 生涯学習の活発化

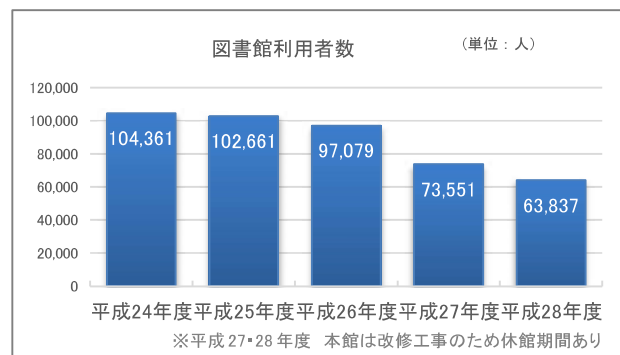
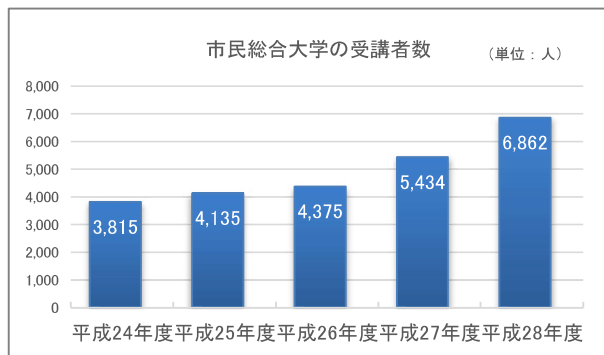
めざす姿

- 魅力的な学習プログラムや、参加しやすい週末や夜間の講座が増えるとともに世代間交流が活発化し、生涯学習に参加する市民が増えています。
- 市民の生涯学習を支える情報拠点として、図書館が活発に利用されるとともに若い世代が学習・交流の場として活用しています。

成果指標と目標値

成果指標	現状値	目標値
市民総合大学の受講者数	6,862 人	8,200 人
図書館利用者数 (本館と児玉分館の図書資料の利用者数、催し物参加者数、施設の利用者数の合計(年間)※平成27・28年度 本館は改修工事のため休館期間あり)	63,837 人	110,000 人

生涯学習の現状



現況と課題

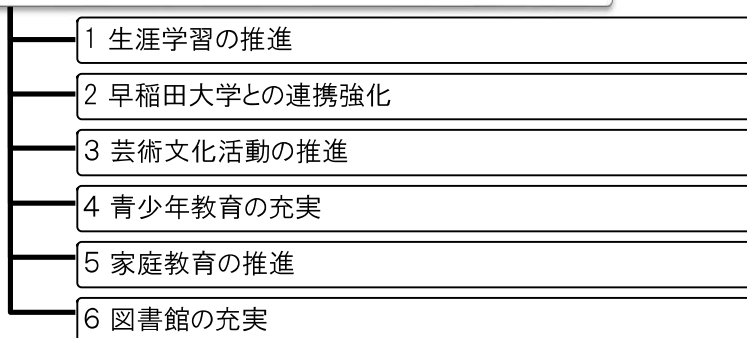
【施策に係る市民満足度: 「生涯学習の活発化」 20.3%】

- ・公民館・文化会館等を生涯学習の拠点として講座の開催や学びの場として提供し、文化芸術の振興、青少年の健全育成、家庭教育を推進してきました。生涯学習活動を通して学び合い、市民が自己の個性を活かし、社会で活躍できるよう、持続的に発展できる仕組みづくりが重要です。
- ・生涯学習活動に取り組んでいる市民の世代や性別に偏りが見られます。生涯学習の活発化には、幅広い世代の様々な市民が集い、学べるよう、参加しやすい工夫を行うことが求められています。

- ・時代の変化が激しく、個人の価値観が多様化している現在、多様なニーズを的確に捉えるとともに、知的好奇心を刺激する講座が提供できるよう、民間団体や NPO 法人の協力や、基本協定を締結している早稲田大学と連携し、大学が持つ知的財産等を活用し、魅力的な講座を提供することも重要です。
- ・少子高齢化が進む社会において、地域のコミュニティが希薄化し、家庭と地域の弱体化がもたらす保護力の低下、高度情報化社会による有害情報の氾濫やトラブルなどに対応した家庭教育支援や青少年健全育成の取組を充実することが必要となっています。
- ・芸術文化の発表や鑑賞の機会を提供する文化会館は、地域の芸術文化を振興し、新たな学びへの機会づくりに重要な役割を果たしています。引き続き市民に有効活用してもらうため、計画的な施設の改修や機能の充実が必要となっています。
- ・近年、図書館の利用が低迷しています。市民の知的要求に応えるため、生涯学習を支える情報の拠点として、蔵書やサービスを充実させ、幅広い年代の市民の利用を促進する必要があります。また、電子媒体の情報の整備や故郷の歴史を紐解く郷土資料の充実も重要です。

めざす姿の実現に向けた施策体系

2-4 生涯学習の活発化



施策中項目） 施策の取組内容

1 生涯学習の推進

- ・幅広い世代の市民が満足できるよう、工夫をこらした魅力ある講座を開催します。
- ・生涯学習の拠点となる公民館を適正に維持管理するとともに、クラブ活動等利用の活発化を図ります。

2 早稲田大学との連携強化

- ・早稲田大学との連携を推進し、市民総合大学をはじめとする各種講座において市民に学びの場を提供し、生涯学習講座への参加の拡大・充実及び地域の活性化を図ります。
- ・子ども大学ほんじょうでは早稲田大学を中心に実行委員会を組織し、子どもの知的好奇心を刺激する学びの場を提供します。

3 芸術文化活動の推進

- ・市民の芸術文化活動の活発化を図るため、芸術文化を発表・鑑賞・創作できる機会の充実

を図ります。

- ・芸術文化活動に積極的に取り組む地域人材の活用を図ります。

4 青少年教育の充実

- ・家庭や地域、青少年育成関係団体と連携し、安全で安心な環境整備に努め、青少年が健やかに成長できる社会づくりを推進します。
- ・青少年が生きることのすばらしさを実感できる教育プログラムの実施を進めます。

5 家庭教育の推進

- ・子育て団体や関係機関と連携し、家庭での教育力、指導力の向上を図る親の学習事業を推進します。

6 図書館の充実

- ・蔵書の充実、読書講座・おはなし会・企画展等の開催、窓口・レファレンスサービス※の充実により、魅力ある環境を整えるとともに、利用の少ない中高生の利用促進に取り組めます。
- ・本市の社会思想家石川三四郎の関連資料を保全・展示するとともに、埴保己一や絹産業遺産関連資料など幅広く収集し、活用を図ります。また、貴重な資料をデジタル化し、利便性の向上を図ります。

協働による取組

- ・早稲田大学や児玉郡市教育委員会を中心に子ども大学ほんじょう実行委員会を組織し、子どもの知的好奇心を刺激する「子ども大学ほんじょう」を開校しています。産・学・公・地域の連携により講座の充実を図ります。
- ・市内の子育て団体や関係機関と連携し、小学校、中学校、保育園、幼稚園及び地域の保護者等を対象に親の力を高め、家庭での教育力の向上を目指す「親の学習」事業を推進します。
- ・家庭・地域・学校・図書館が協働して読書環境を整備するとともに、ボランティアと連携して、おはなし会・ブックスタート※等の事業を実施して子どもの読書活動推進を図ります。

関連計画

計画名	計画期間	概要
本庄市生涯学習推進計画	平成 26 年度～平成 30 年度	本市の生涯学習を総合的・計画的に推進するための基本計画
本庄市子ども読書活動推進計画	平成 30 年度～平成 34 年度（予定）	子どもの読書活動を総合的にかつ計画的に推進するための計画

※ レファレンスサービス：図書館で、利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報や資料などを求めた際に、図書館員が情報や資料そのものを提供したり、情報を得るために必要な書籍や資料を調べて紹介する業務

※ ブックスタート：乳幼児に絵本のプレゼントと読み聞かせを行い、親子の絆を深めながら本に親しむ機会を提供すること

施策大項目)

5 文化財の保護と活用の推進

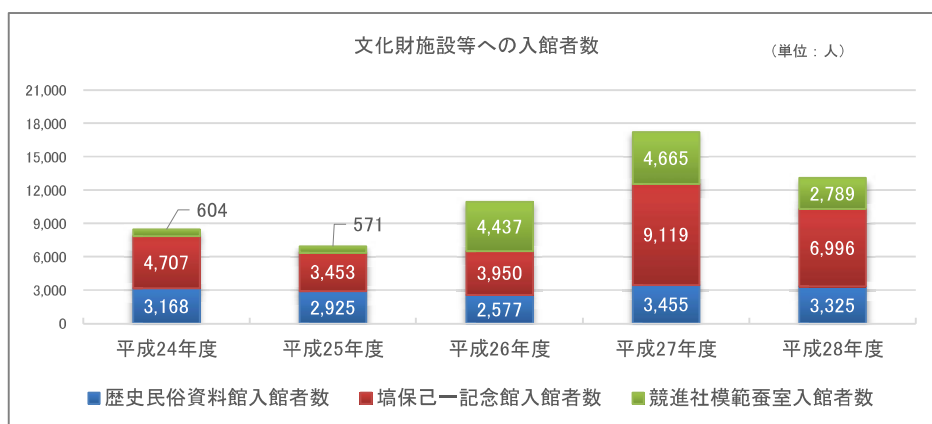
めざす姿

- 文化財が大切に保護され、継承されています。
- 文化財が学校教育や生涯学習の場で活用され、理解が深まっています。
- 文化財が活用され、地域の活性化や市のPRに貢献しています。

成果指標と目標値

成果指標	現状値	目標値
文化財施設等への入館者数 (歴史民俗資料館・埴保己一記念館・競進社模範蚕室の入館者数の合計(年間))	13,110 人	15,000 人

文化財の保護と活用の現状



現況と課題

【施策に係る市民満足度:「文化財の保護と活用の推進」51%】

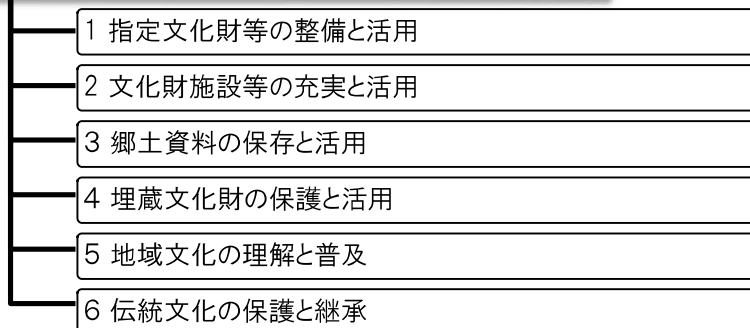
- 平成29年4月1日現在、指定文化財等の数は、国指定1件、県指定20件、市指定110件、国登録有形文化財8件の、計139件となっています。また、指定文化財以外にも郷土資料や考古資料を多数保存しており、市内には500か所以上の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)があります。これらの貴重な財産を保護し未来へと継承していくとともに、広く一般に公開し活用していくことが必要です。
- 埴保己一記念館のリニューアルオープン、競進社模範蚕室が「世界文化遺産・富岡製糸場と絹産業遺産群」との関連で注目を集め、入館者が大幅に増加しました。その後、入館者数は落ち着いたものの、堅調に推移しています。はにぼんのモデルになった笑う盾持人物埴輪や国内唯一の完形品のガラス小玉鋳型などを収蔵する歴史民俗資料館も含め、見学可能な三施設の魅力

を発信し、多くの人に見学に訪れてもらうとともに、郷土の偉人の功績や市の歴史について理解を深めてもらう取組も重要です。

- ・歴史民俗資料館と競進社模範蚕室は、明治時代に建築された貴重な建造物で、埼玉県の有形文化財に指定されています。今後も建物の維持保全を図り、安全に見学できる環境を維持していく必要があります。
- ・また、公民館や学校等と連携して、市民の地域文化への興味と理解を深めるとともに、各地域で行われている伝統文化を保護・継承する取組も必要です。

めざす姿の実現に向けた施策体系

2-5 文化財の保護と活用の推進



施策中項目) 施策の取組内容

1 指定文化財等の整備と活用

- ・国指定史跡塙保己一旧宅をはじめ、市内にある県・市指定文化財や、国登録有形文化財等を適切に保護するとともに、それら貴重な財産を広く紹介し、地域の中で活用するための整備を行います。また、価値のある文化財は、積極的に指定をしていきます。

2 文化財施設等の充実と活用

- ・塙保己一記念館、歴史民俗資料館、競進社模範蚕室等の文化財施設とともに郷土の偉人の功績を市内外に広く発信し、入館者の増加と地域の活性化を図ります。歴史的建造物である歴史民俗資料館と競進社模範蚕室については、建物の維持保全のために必要な対策を講じます。

3 郷土資料の保存と活用

- ・市内に残された古文書や行政文書等の歴史的な資料を適切な環境で保存するとともに、それらの整理分類、デジタル化を進めます。また、その成果を『本庄市郷土叢書』等の冊子として刊行するなど、郷土への理解を深めるための活用を図ります。

4 埋蔵文化財の保護と活用

- ・市内にある埋蔵文化財包蔵地の保存に努め、開発者と調整を図ります。やむを得ず取り壊す場合は発掘調査を行い、報告書として刊行します。
- ・出土遺物については、展示・発表の機会を増やし、より多くの人が観賞できるよう取り

組みます。また、収納場所の集約化と適切なスペースの確保を図ります。

5 地域文化の理解と普及

- ・公民館との連携による歴史講座や、学校との連携による出前授業などを行い、地域文化の理解と普及を促進します。また、古い民具や農具に触れたり、実際に使ってみる機会を提供し、昔の生活への理解と郷土愛の醸成を図ります。

6 伝統文化の保護と継承

- ・市内各地域で行われている祭りや伝統行事をはじめとする、地域の中で育まれた伝統文化を保護し、これらの継承活動を支援します。また、実演機会の増加等により後継者の育成を支援するなど、地域の文化遺産として未来へ継承できるよう取り組みます。

協働による取組

- ・地元 NPO 法人との協働で昔の農具を使った農作業の実演をします。
- ・文化財施設等での市民による解説ボランティアを育成・活用します。

施策大項目) 6 生涯スポーツ・レクリエーションの促進

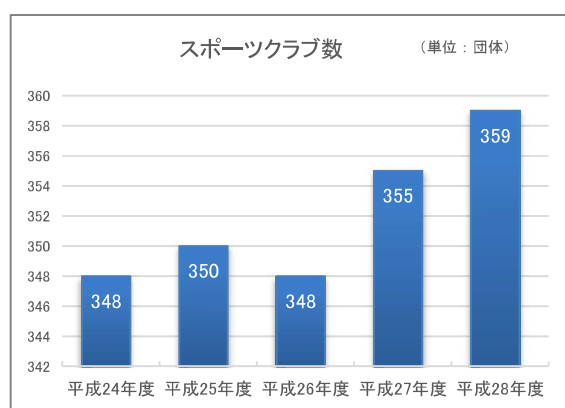
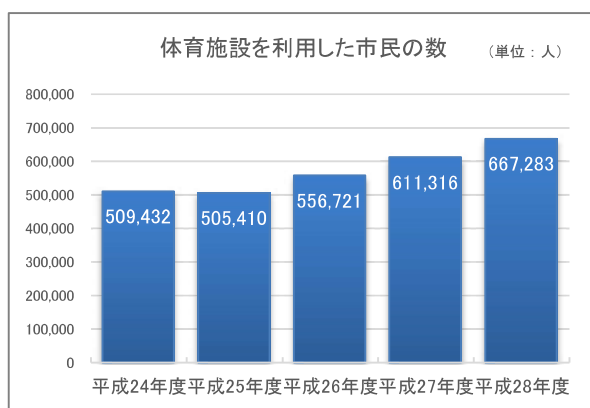
めざす姿

- スポーツ・レクリエーションに取り組み体育施設を利用する市民が増えています。
- スポーツ・レクリエーションに取り組む市民が満足できる施設整備が行われています。

成果指標と目標値

成果指標	現状値	目標値
体育施設を利用した市民の数	667,283 人	797,000 人
スポーツクラブ数 (本庄市体育協会・レクリエーション協会・スポーツ少年団に加入している団体数及び体育施設利用団体数(登録団体数)(年間))	359 団体	381 団体

生涯スポーツの促進の現状



現況と課題

【施策に係る市民満足度:「生涯スポーツの促進」38.4%】

- ・スポーツ・レクリエーションは、だれでもが体力や年齢に応じて取り組むことができ、健全な心と体を維持する上で、重要性和効果が改めて認識されています。市民一人ひとりが健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯にわたってスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりが重要です。
- ・本市ではこれまで、各種体育施設を整備するとともに、「市民一人1スポーツ」を目標に掲げ、心身の健康の保持増進と体力の維持・向上に役立つよう、市民が気軽に参加することができるスポーツ・レクリエーション教室や大会を開催し、スポーツ・レクリエーションの推進に努めてきました。今後は、高齢者などが気軽に参加して健康の増進を図れるよう、内容や運営につ

いて工夫をしていく必要があります。

- ・スポーツ・レクリエーション活動をさらに推進するためには、団体を支援して活動の活発化を図るとともに指導者の養成等を行うことが重要です。また、シルクドームをはじめ、各種体育施設の適正な維持管理を図るため、計画的な改修・修繕に努めるとともに、学校体育施設を有効活用するなど身近な場所で気軽に利用できる体育施設等の整備・充実が求められています。
- ・市内体育施設を活用し、一流選手によるプレーを間近で観戦をしたり、教室などで技術指導を受けることは、参加者に夢や感動を与え、スポーツへの興味や関心を高めて裾野を広げることにつながります。体育施設の有効活用や地域活性化につながるスポーツ振興として、指定管理者と連携して進める必要があります。

めざす姿の実現に向けた施策体系

2-6 生涯スポーツ・レクリエーションの促進

- 1 スポーツ・レクリエーション事業による心身の健康の保持増進
- 2 スポーツ・レクリエーション団体の支援
- 3 スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保
- 4 体育施設の維持管理と利用の促進
- 5 学校体育施設開放の充実

施策中項目) 施策の取組内容

1 スポーツ・レクリエーション事業による心身の健康の保持増進

・「市民一人1スポーツ」を目標に掲げ、川淵三郎塾※を推進するとともにすべての市民が、生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しみ、楽しむことができるよう、気軽に参加できる各種スポーツ・レクリエーション教室及び大会等を充実し、心身の健康の保持増進を図ります。

2 スポーツ・レクリエーション団体の支援

・体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の活動を促進するため、必要な支援を行い、組織の育成、強化を支援していきます。また、総合型地域スポーツクラブについて支援を図ります。

3 スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保

・スポーツ・レクリエーションの推進を図るため、体育協会等の各種団体と連携し、競技団体指導資格の取得の研修会、講習会等への参加を促進し、資格者の養成・確保に努めるとともに、スポーツ推進委員活動の充実を図ります。

※ 川淵三郎塾：本庄市が掲げる「市民一人 1 スポーツ」の理念を実現するため、平成21年4月に川淵三郎氏が早稲田大学の特命教授に就任されたことを契機として、市内スポーツ・レクリエーション団体等と早稲田大学との協働連携により継続的にスポーツ振興を図る取組の総称

4 体育施設の維持管理と利用の促進

- ・市民が気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめるよう、スポーツ施設の安全確保に努めるとともに、計画的な修繕による維持管理を図ります。また、指定管理者と連携を図り、一流選手のプレーを間近で体感できるよう、スポーツ大会や教室の開催に努めます。

5 学校体育施設開放の充実

- ・市民が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しめるよう、市内の公立小中学校体育館・武道場及びグラウンドを学校教育に支障のない範囲で貸し出すとともに、学校と連携し適切な維持管理を行います。

関連計画

計画名	計画期間	概要
本庄市健康づくり推進 総合計画	平成28年度～平成32年度	健康づくりの推進に係る「健康増進計画」「食育推進計画」「歯科口腔保健推進計画」という3つの計画を包含し、取組の相乗効果と推進力を高める総合計画

2 本庄市の将来像

本市のまちづくりの将来像を、次のとおり定めました。この将来像は、本庄市の 10 年後を見据えて、本市の特長を活かし、市民みんなで目指すまちづくりの目標です。

あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄
～世のため、後のため～

本市は、古くから培われた歴史と、優れた教育環境を特長とするまちです。これらを将来にわたって伝えていくのみならず、新たな歴史を築き、次代を担う人を育む、「歴史と教育のまち」を目指していきます。

また、市民のまちづくりへの参画を進める「あなたと活かす」まちづくり、市民がつながり支えあう「みんなで育む」まちづくりを進めます。

さらに、本市の偉人「塙保己一」が遺したことばである、「世のため、後のため」のまちづくりを進めます。

このような思いを込めて、本市の将来像を「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄 ～世のため、後のため～」と表現しました。

平成29年度 埼玉県及び全国学力・学習状況調査結果と取組(学力の現状)

学校教育課

1 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果等を受けての重点取組に係る効果の検証

(1) 平成29年度埼玉県学力・学習状況調査結果

学力を伸ばした児童生徒の割合

	国語		算数・数学		英語	
	県全体 (%)	本庄市全体 (%)	県全体 (%)	本庄市全体 (%)	県全体 (%)	本庄市全体 (%)
小4→小5	73.1	78.2	71.4	82.4		
小5→小6	69.6	75.1	64.5	61.8		
小6→中1	71.0	69.2	68.4	68		
中1→中2	66.0	70.6	64.8	68.9		
中2→中3	68.3	70.5	74.7	77.2	88.8	89.1

(2) 平成29年度全国学力・学習状況調査結果

正答率における全国平均との差

【小学校】

	A問題		B問題	
	H29	H28	H29	H28
国語	△1.8	△5.8	△4.5	△8.3
算数	△5.6	△8.2	△2.9	△8.3

【中学校】

	A問題		B問題	
	H29	H28	H29	H28
国語	△5.4	△5.6	△4.2	△9.5
数学	△5.6	△11.1	△2.1	△10.2

(3) 平成28年度の重点取組と効果に係る考察

本市では、これまで授業改善を中心とした学力向上に取り組んできた。具体的には、学力向上担当の学校訪問や各種研修会を計画・実施するとともに、授業改善のポイントを示し、学習のスタンダード化を図ってきた。また、市学力向上推進委員会等の組織を活用して、学力学習状況調査の分析方法の統一や、無回答率の改善に向けた調査問題への取組方法の統一などに取り組んできた。さらに、各学校では、授業研究会や研修会等による教員の授業力向上と、児童生徒の学習習慣の定着に向けた取組等を行ってきた。

これらの取組より、全国学力学習状況調査では、全国平均正答率との差が縮まり、埼玉県学力学習調査では、県より高い伸び率を示す学年・教科も見られた。これまでの取組の効果が少しずつ現れてきているものと考えられる。

2 平成29年度 埼玉県及び全国 学力・学習状況調査結果を受けての重点取組に係る計画

(1) 平成29年度 重点課題

○効果的な取組の共有化

○教員による、全国学力・学習状況調査「教科に関する調査」問題の出題内容、傾向等の把握

○復習シート等の活用

○『中学校区で進める「学びのスタンダード」』の作成

(2) 時期と実施内容

時期	内容
8月	○学力向上推進委員会にて『中学校区で進める「学びのスタンダード」』の検討
10月	○全国・県学調分析シートの作成、教委へ提出。
11月	○学力向上推進委員会にて各学校の課題解決の方策について共有。 ○学力向上推進委員会にて『中学校区で進める「学びのスタンダード」』の検討
12月～3月 (冬季・春季休業中を含む)	○各学校において、平成29年度の問題を加えたコバトプリント、県学調復習シートに取り組む。
2月	○学力向上推進委員会にて『中学校区で進める「学びのスタンダード」』の完成 ○学力向上推進委員会調査問題実施方法研修会にて、調査問題への取り組み方法の統一を図る。(時間配分・回答順序等)

平成28年度 全国体力・運動能力等調査結果(体力の現状)

学校教育課

全国を下回る

県を上回る

小学校(小5)男子

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび (点)	持久走 (秒)	20mシャ トルン (回)	50m走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ソフト ボール (m)	体力 合計点	総合評価段階別					上位3段階 の割合 A+B+C
											A	B	C	D	E	
本庄市	15.87	22.21	34.14	46.37		54.04	9.26	153.5	20.91	55.79	17.1%	29.8%	28.5%	16.5%	8.1%	75.4%
全国	16.47	19.67	32.87	41.97		51.89	9.38	151.39	22.42	53.92	11.7%	25.1%	33.5%	20.6%	9.1%	70.3%
埼玉県(8位)	16.5	21.28	34.22	44.01		56.82	9.29	155.09	21.36	55.84	15.7%	29.6%	32.6%	16.2%	5.9%	77.9%

小学校(小5)女子

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび (点)	持久走 (秒)	20mシャ トルン (回)	50m走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ソフト ボール (m)	体力 合計点	総合評価段階別					上位3段階 の割合 A+B+C
											A	B	C	D	E	
本庄市	16.98	21.56	38.83	43.76		46.46	9.44	150.86	13.95	59.3	29.2%	31.4%	27.6%	8.6%	3.2%	88.2%
全国	16.13	18.6	37.21	40.06		41.29	9.61	145.31	13.88	55.54	15.4%	27.2%	33.7%	18.1%	5.6%	76.3%
埼玉県(5位)	16.38	20.41	38.88	42.23		46.8	9.5	150.44	13.75	58.28	23.0%	33.0%	30.2%	11.1%	2.7%	86.2%

中学校(中2)男子

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび (点)	持久走 1500m (秒)	20mシャ トルン (回)	50m走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ハンド ボール (m)	体力 合計点	総合評価段階別					上位3段階 の割合 A+B+C
											A	B	C	D	E	
本庄市	28.87	30.72	47.98	53.8	375.54		7.78	199.08	19.82	44.96	14.1%	31.8%	37.6%	11.7%	4.8%	83.5%
全国	28.91	27.46	43.06	51.93	391.72	86.24	8.03	194.69	20.59	42.13	7.8%	26.1%	37.9%	21.6%	6.5%	71.8%
埼玉県(5位)	29.25	29.93	46.27	52.81	374.45	91.3	7.93	197.36	21.16	44.43	11.3%	31.6%	36.4%	16.6%	4.1%	79.3%

中学校(中2)女子

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体 前屈 (cm)	反復横 とび (点)	持久走 1000m (秒)	20mシャ トルン (回)	50m走 (秒)	立ち幅 とび (cm)	ハンド ボール (m)	体力 合計点	総合評価段階別					上位3段階 の割合 A+B+C
											A	B	C	D	E	
本庄市	24.06	27.28	49.26	48.24	277.95		8.59	174.24	13.18	53.5	40.4%	35.8%	18.1%	5.7%	0.0%	94.3%
全国	23.75	23.48	45.46	46.6	288.51	58.8	8.83	168.28	12.85	49.56	28.9%	32.5%	26.1%	10.6%	2.0%	87.5%
埼玉県(3位)	24.56	26.6	48.57	47.67	274.58	66.17	8.62	173.7	13.53	53.27	41.1%	32.9%	19.7%	5.6%	0.7%	93.7%

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果の概要 (案)

参考資料

調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年 [児童生徒数]

・小学校 第6学年 [605名] ・中学校 第3学年 [612名]

3 調査の内容

○教科に関する調査 (国語、算数・数学)

・主として「知識」に関する問題 (国語A、算数・数学A)

・主として「活用」に関する問題 (国語B、算数・数学B)

○生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査、学校に対する調査

4 調査日 平成29年4月18日 (火)

5 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえること。

■学習指導要領の領域等のごとの平均正答率■

[] 内は、全国平均値を100としたときの本市の状況 (単位%)

領域等		国語 A		国語 B	
話すこと	小学校	62.6	[90.5]	59.7	[92.0]
	中学校	69.2	[91.8]	69.6	[96.1]
書くこと	小学校	58.3	[96.2]	49.8	[93.3]
	中学校	80.7	[94.2]	56.0	[92.1]
読むこと	小学校	65.1	[92.7]	46.2	[93.9]
	中学校	68.8	[93.2]	67.1	[93.1]
言語事項	小学校	77.8	[99.7]		
	中学校	72.0	[93.3]		

領域等		算数・数学 A		算数・数学 B	
数と計算	小学校	76.0	[94.3]	49.8	[94.3]
数と式	中学校	64.3	[91.3]	44.4	[95.9]
量と測定	小学校	60.6	[88.1]	47.9	[101.9]
関 数	中学校	61.9	[93.8]	45.2	[96.0]
図 形	小学校	78.3	[96.5]	7.1	[53.8]
	中学校	50.9	[88.7]	46.7	[91.9]
数量関係	小学校	74.5	[93.6]	37.4	[93.5]
資料の活用	中学校	49.2	[85.4]	48.5	[98.8]

教科に関する調査

■教科に関する調査の平均正答率■

(単位%)

		国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
小 学 校	H29	73 [97.6]	53 [92.2]	73 [92.9]	43 [93.7]
	H28	68.7 [94.2]	53.0 [91.7]	71.2 [91.8]	43.3 [91.7]
中 学 校	H29	72 [93.0]	68 [94.2]	59 [91.3]	46 [95.6]

質問紙調査

◇◆ 主に児童生徒自身に関すること ◇◆

質問事項	小学校		中学校	
	H29	H28	H29	H28
[1] 毎日朝食を食べている。	95.2 (95.4)	96.3 (96.5)	93.1 (93.2)	95.2 (94.3)
[2] 新聞を読んでいる。	22.1 (21.0)	23.2 (24.0)	11.2 (14.9)	13.3 (18.3)
[3] 家の人と将来のことについて話す。	58.3 (50.4)		64.5 (60.7)	
[4] 将来の夢や目標を持っている。	89.1 (85.9)	87.8 (85.3)	78.6 (70.5)	75.2 (71.1)
[5] ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	93.9 (94.8)	94.7 (94.4)	95.0 (94.7)	93.9 (94.3)
[6] 自分には、良いところがあると思う。	78.6 (77.9)	73.4 (76.3)	70.8 (70.7)	64.7 (69.3)
[7] 人が困っているときは、進んで助けている。	88.3 (85.3)	84.6 (84.6)	88.0 (84.4)	82.8 (83.8)
[8] いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	94.8 (96.1)	96.4 (96.6)	93.7 (92.8)	94.5 (93.7)
[9] 人の役に立つ人間になりたいと思う。	92.2 (92.5)	92.3 (93.8)	92.4 (91.9)	92.6 (92.8)
[10] 読書が好き。	71.6 (74.3)	74.8 (74.6)	79.4 (69.9)	76.9 (69.9)
[11] 住んでいる地域の行事に参加している。	68.3 (62.6)	72.1 (67.9)	50.0 (42.1)	50.6 (45.2)
[12] 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	68.4 (63.9)	70.1 (70.6)	63.4 (59.2)	62.1 (65.8)
[13] 毎日、同じくらいの時間に寝ている。	83.2 (79.8)		79.5 (75.6)	
[14] 平日、一日あたりでどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンをしますか。 (4時間以上)	4.3 (3.8)	2.8 (3.0)	10.9 (9.5)	8.9 (8.6)

◇◆ 主に学校生活・学習に関すること ◇◆

質問事項	小学校		中学校	
	H29	H28	H29	H28
[1] 学校へ行くのは楽しい。	89.3 (86.3)	88.7 (86.3)	80.1 (80.9)	82.2 (81.4)
[2] 学校で友達に会うのは楽しい。	96.8 (96.4)	97.0 (96.2)	95.2 (94.6)	94.7 (94.7)
[3] 家で学校の宿題をしていますか。	98.1 (96.9)	97.1 (97.0)	88.8 (89.5)	85.2 (90.1)
[4] 学校のきまり（規則）を守っている。	92.3 (92.6)	93.2 (91.5)	96.5 (95.2)	95.5 (94.7)
[5] 家で学校の授業の復習をしている。	62.9 (53.8)	60.7 (55.2)	65.3 (50.5)	61.3 (51.0)
[6] 前の学年までに受けた授業のはじめに目標が示されていた。	88.6 (88.2)	87.6 (87.6)	94.7 (87.8)	92.0 (84.9)
[7] 自分で計画を立てて勉強をしている。	75.2 (64.5)	70.8 (62.2)	60.5 (51.5)	59.0 (48.4)
[8] 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	46.2 (52.2)	47.4 (51.7)	47.0 (50.5)	45.8 (50.2)
[9] 先生は、あなたのよいところを認めてくれている。	90.0 (86.0)	84.9 (82.6)	86.0 (80.4)	83.8 (78.0)
[10] 前の学年までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた。	79.7 (76.2)	77.1 (76.1)	85.5 (66.1)	75.2 (63.1)
[11] 前の学年までの道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う。	81.1 (78.5)	83.8 (77.6)	83.5 (76.0)	80.8 (74.1)
[12] 学校の授業時間以外に、どれくらいの時間、勉強しますか。 <u>(30分より少ない割合)</u>	6.5 (11.3)	11.2 (11.9)	11.6 (13.2)	12.9 (14.4)
[13] 学校が休みの日に、どれくらいの時間、勉強しますか。 <u>(1時間より少ない割合)</u>	36.1 (42.6)	37.0 (43.0)	28.4 (30.4)	30.3 (32.0)
[14] 調査問題の解答時間は十分でしたか。 <u>(やや足りなかった、足りなかったと回答した割合)</u> ※国語A・B、算数数学A・Bの4調査の平均	25.9 (26.5)	26.8 (24.4)	16.2 (12.9)	20.2 (16.9)

() 内は、全国平均値 **太字**は、全国平均値より結果の良かった項目

本庄市の子どもの「学力」と「学習意欲等」について ～全国学力学習状況調査の結果の概要～

教科に関する調査結果から

【小学校】国語、算数の問題A・Bのいずれも全国の平均正答率を下回る。平均正答率に大きな変化はないが、全ての教科で、全国との差が縮まった。

【中学校】国語、数学の問題A・Bのいずれも全国の平均正答率を下回る。国語 B、数学 A・B で 5 ポイント以上高くなり、国語 A を除く全ての教科で、全国との差が縮まった。

【小学校：国語】

◇：よい傾向 ◆：改善の必要有り ⇒：改善策の一例

◇国語 A 「言語に関する知識・理解」は、全国平均とほぼ同程度である。

◆国語 A 「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。

⇒話の共通点や相違点を整理しながら、話したり、聞いたりする活動を充実させる。

【小学校：算数】

◇算数 B 「量と測定」は、全国平均を上回った。

◆算数 A 「量と測定」の理解に課題が見られる。

⇒規準の幾つ分という同じ見方で同じ大きさの違いをを実感できるように指導する。

【中学校：国語】

◇国語 B 「話すこと・聞くこと」は、全国平均とほぼ同程度である。

◆国語 A 「話すこと・聞くこと」は、国語 B 「言語に関する知識・理解」に課題が見られる。

⇒場面や描写の内容を明確にしたり、感じたことを具体的に説明したりする指導をする。

【中学校：数学】

◇数学 B 「資料活用」は、全国平均とほぼ同程度である。

◆数学 A 「資料活用」の技能、理解に課題が見られる。

⇒資料の散らばりの程度を捉える活動を行う際に、資料の範囲の意味を理解できるように指導する

児童生徒に対する質問紙調査結果から

児童生徒自身に関することでは、全国平均値より結果の良かった項目が昨年度より多くなり、生活習慣の改善や道徳性の高まりがみられる。また、学校生活・学習に関する項目では、満足と感じている児童生徒は全国平均より高い傾向が見られる。さらに、家庭学習の時間からは、平日・休日とも学習習慣の定着が同われる。

□：よい傾向 ■：改善の必要有り ⇒：改善策の一例

【小学校・中学校共通で主に児童生徒自身に関すること】

□「将来の夢や目標を持っている」、「住んでいる地域の行事参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と答えている割合は、全国平均より高い。

□「自分には、良いところがあると思う」と答えている割合は、前年度より 5 ポイント以上増加した。

■一日あたりの携帯電話やスマートフォンの使用時間(4時間以上)が増加した。

⇒携帯電話やスマートフォンの使い方について課程との連携を図る。

【小学校・中学校共通で主に学校生活・学習に関すること】

□「学校に行くのが楽しい」、「学校で友達と会うのが楽しい」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と答えている割合は、全国平均より高い。

□「家で学校の授業の復習をしている」、「自分で計画を立てて勉強している」と答えている割合は、全国平均より高い。

□「授業以外での学習時間が 30 分以下の児童生徒」の割合は、全国平均を下回っている。特に小学校では、平日が前年度より 5 ポイント弱上っている。

■「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と答えた割合は、全国平均より低い。

⇒全ての学校生活の中で、意図的に自分の考えを発表する場面をつくり、指導を重ねながら、表現することに自信を持たせる。

昨年度の取組の検証と課題

本市では、日々の授業改善を柱に学力の向上に取り組んできた。一単位時間の学習の進め方を【課題をつかむ→見通をもつ→学び合い→まとめ→ふりかえり】とし、本市のスタンダードとして統一していくことで、児童生徒の学習内容の定着に重点をおいてきた。児童生徒の意識調査「主に学校生活・学習に関すること」の [6] [10] [11] からその成果が見える。

教科に関する調査結果の各調査の平均正答率は、小中学校とも依然として全国平均を下回っている状況である。しかし、昨年度と比較すると、中学校国語 B を除く全ての調査で全国との差は縮まった。各学校において授業改善が浸透しつつあることが伺える。また、無解答率については、これまでの課題であったが、大きく改善が見られた。授業改善に向けた学校訪問、各学校のわかる授業を目指した授業研究や各学校における児童生徒の課題に対する改善策が少しずつ成果となった。

改善に向けた教育委員会の重点取組

○学力向上推進委員会等で、本庄市の実態や各学校の実態を捉えた取組の内容を検討し、全市で共通理解(授業のスタンダード)を図った取り組みをさらに推進します。

○様々な機会を捉え、各学校へ指導主事を積極的に派遣し、学習内容定着のための授業改善の方策を示し、実施状況の確認・見届けを行っています。

平成 29 年度 埼玉県学力・学習状況調査結果の概要 (案)

参考資料

調査の概要

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 実施日 平成 29 年 4 月 1 日 (木)

3 調査の対象 [児童生徒数]

- ・小学校 第 4 学年～第 6 学年 [1, 8 4 6 名]
- ・中学校 第 1 学年～第 3 学年 [1, 8 3 3 名]

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

○教科に関する調査

小学校第 4 学年から中学校第 1 学年まで [国語、算数・数学]
中学校第 2 学年及び第 3 学年 [国語、数学、英語]

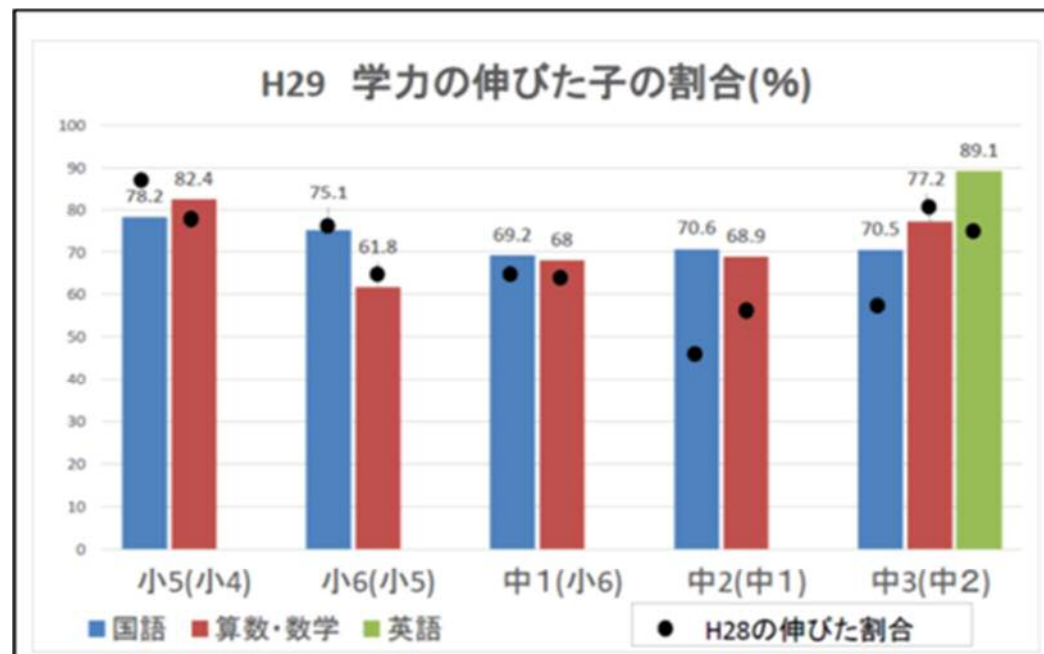
○質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

(2) 学校に対する調査



前年度から学力が伸びた児童生徒の全体に対する割合



教科に関する調査

■教科に関する調査の平均正答率

	小学校			中学校		
	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
国語	65.4 [97.7]	64.5 [95.4]	67.8 [99.4]	62.0 [96.2]	58.5 [98.9]	54.5 [95.2]
算数 数学	62.3 [100.8]	58.7 [95.2]	59.3 [95.1]	60.9 [92.4]	53.9 [98.3]	58.5 [94.8]
英語					58.0 [97.1]	53.5 [96.7]

太字は、昨年度の本市平均正答率を上回ったもの
[] 内は、県平均値を 100 としたときの本市の状況
太字 は、前年度より県との差が縮まったもの

■「学校生活等に関する内容」■

(1) 「学力の伸び」より

◇小学校の第 5 学年・第 6 学年の伸びは昨年度とあまり変化はなかったが、中学校第 2 学年・第 3 学年では、前年度を上回る伸びが見られた。

◇昨年度と比較すると特に中学校第 2 学年・第 3 学年の国語、第 2 学年の数学、第 3 学年の英語は、大きく伸びが見られた。

(2) 平均正答率より

●平均正答率は、第 4 学年の算数を除き、各学年・各教科ともに県平均値に達していない。

○昨年度の本市平均正答率と比較すると、国語は、全ての学年、算数・数学では、中学校第 3 学年、英語では、中学校第 2 学年で上回った。

○14 の調査のうち、9 調査が県の平均正答率との差が縮まった。他の 5 調査も県とほぼ同等の平均正答率であった。

質問紙調査

■「規律ある態度」 ■ ※質問事項は、教育に関する3つの達成目標の内容を抜粋
※「よくできる」「だいたいできる」を合わせた値（単位％）

質問事項	小学校			中学校		
	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
1 登校時刻	87.2 (91.0)	93.1 (94.4)	94.4 (95.6)	98.0 (98.1)	97.9 (97.5)	96.3 (97.0)
2 授業開始時刻	89.9 (91.4)	94.3 (95.2)	95.8 (95.9)	97.3 (98.2)	96.9 (97.6)	97.9 (97.2)
3 靴そろえ	81.5 (84.0)	88.6 (87.6)	90.4 (89.1)	93.9 (92.7)	93.9 (91.9)	96.1 (91.9)
4 整理整頓	79.5 (82.1)	83.0 (84.6)	83.9 (84.1)	90.5 (88.0)	87.2 (84.9)	89.7 (85.8)
5 あいさつ	78.2 (81.2)	79.5 (82.1)	81.2 (82.1)	81.7 (85.1)	85.6 (85.2)	80.3 (82.4)
6 返事	86.1 (87.9)	86.6 (90.0)	84.7 (88.1)	90.4 (90.5)	87.8 (88.4)	85.5 (86.8)
7 ていねいな言葉づかい	82.4 (85.1)	88.3 (88.2)	87.2 (87.8)	92.5 (92.2)	92.6 (90.5)	90.6 (89.4)
8 優しい言葉づかい	82.9 (84.1)	86.0 (85.7)	83.2 (83.8)	92.0 (91.1)	88.7 (86.9)	89.2 (84.0)
9 学習準備	74.0 (79.5)	87.8 (89.3)	88.2 (88.6)	91.4 (91.6)	89.5 (88.6)	88.2 (87.7)
10 話を聞き発表する	77.0 (78.6)	80.1 (78.8)	77.1 (75.1)	79.1 (77.6)	67.5 (69.5)	67.3 (66.6)
11 集団での態度	78.4 (82.7)	85.5 (86.9)	83.9 (86.8)	93.9 (94.0)	94.9 (93.2)	92.7 (92.3)
12 掃除美化活動	84.7 (87.0)	90.4 (88.9)	82.9 (87.7)	88.0 (84.8)	90.8 (85.4)	92.6 (82.2)

() 内は、県平均値 は、県の目標値(80%)を達成した項目

■「学校生活等に関する内容」 ■

※「よくできる」「だいたいできる」を合わせた値（単位％）

質問事項	小学校			中学校		
	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
1 自分には、よいところがあると思う	78.5 (76.8)	74.2 (76.4)	79.9 (79.0)	73.4 (75.0)	65.7 (67.2)	71.0 (69.4)
2 先生は自分のことを認めてくれている	90.3 (89.8)	93.5 (92.0)	91.9 (92.2)	92.7 (94.0)	91.0 (91.0)	89.2 (88.8)
3 先生たちは自分の悩みの相談にのってくれる	86.7 (89.6)	89.8 (88.7)	85.5 (88.6)	90.4 (89.3)	91.1 (88.9)	87.6 (87.1)
4 友だちは自分の良いところを認めてくれている	85.6 (85.3)	91.0 (88.0)	90.2 (89.5)	93.2 (92.8)	92.0 (91.2)	92.6 (90.4)
5 将来の夢や目標を持っている	90.1 (89.6)	91.2 (91.2)	88.7 (87.5)	85.5 (86.8)	72.1 (75.2)	78.4 (72.2)
6 前学年の学級での生活は楽しかった	94.3 (92.9)	91.7 (91.4)	91.2 (91.0)	92.9 (92.8)	93.9 (91.5)	91.3 (89.5)
7 前の学年での学級は、いろいろな活動にまよって取り組んでいた。	90.4 (89.7)	93.3 (92.8)	93.4 (93.5)	92.2 (93.0)	92.7 (91.1)	91.1 (89.0)
8 県や住んでいる市町村の歴史や自然に関心がある	71.3 (69.6)	76.2 (71.3)	72.3 (67.5)	62.5 (58.1)	45.8 (42.1)	46.8 (35.0)
9 失敗を恐れなくて挑戦する	80.9 (79.0)	84.3 (82.2)	78.4 (79.3)	75.1 (74.5)	72.7 (70.4)	68.5 (65.1)

() 内は、県平均値 は、県平均値より高い項目

本庄市の子どもの「学力」と「学習意欲等」について ～埼玉県学力・学習状況調査の結果の概要～

教科に関する調査結果から

小・中学校とともに全教科で、県平均を下回った。各教科の調査問題の中で、記述式に対する無回答率が高い。特に学年が上がるにつれて、その傾向が高くなる。

◇：よい傾向 ◆：改善の必要有り ⇒：改善策の一例

【小学校 第4学年】

◇算数「量と測定」「数量関係」は、県平均を上回った。

◆国語 記述式の問題形式に課題が見られ、無回答率も高い。

⇒日常的に目的を明確にした作文を書く機会を設ける。

【小学校 第5学年】

◇算数「図形」「数量関係」は、県平均とほぼ同程度である。

◆国語「話す聞く能力」の話し合いの目的に応じて発言することに課題が見られる。

⇒話の内容をメモするだけでなく、話の趣旨などを考えながら聞くよう指導する。

【小学校 第6学年】

◇国語「話す・聞く・書く」「話す・聞く能力」は、県平均を上回った。

◆算数「数量や図形についての知識理解」、「数学的な考え方」に課題が見られる。

⇒毎時間の学習内容を定着するための指導と評価を確実に行う。

【中学校 第1学年】

◇国語の平均正答率は、県平均とほぼ同程度である。

◆数学「数量関係」における数学的な考え方に課題がある。

⇒数量の関係を言葉や式を用いて一般化して表現できるよう指導する。

【中学校 第2学年】

◇国語・数学の平均正答率は、県平均とほぼ同程度である。

◆英語「書くこと」における記述式の問題形式に課題がある。

⇒音声でやりとりした表現を自力で書いて表現させる活動を継続的に行う。

【中学校 第3学年】

◇国語の平均正答率は、県平均とほぼ同程度である。

◆数学「数と式」「関数」領域に課題が見られる。無回答率も高い。

⇒個別の支援、授業中の振り返りで学習内容を確実に定着させる。

「規律ある態度」に関するほとんどの項目が、県の目標値である80%以上達成できている。「学校生活等に関する内容」では、多くの項目で県平均を上回っている。

□：よい傾向 ■：改善の必要有り ⇒：改善策の一例

【小学校】

□学年が進むと達成している項目が増えている。

■「あいさつ」「話を聞き発表する」に関する項目は、2学年で8割を下回っている。

⇒学校での継続したあいさつ指導の取組や小中学校で連携した指導を行う。学校と家庭の連携を図った取り組みを充実させる。

【中学校】

□「授業開始時刻」「学習準備」「集団の場での態度」ができていると答えている割合が高い。日ごろの指導の成果が見える。

□「清掃・美化活動」が県平均より5ポイント以上高く、各学校における無言膝つき清掃等の継続した取組の成果が伺える。

■「話を聞き発表する」に関する項目は、県の平均と比較すると低くなっている。中学校第2・3学年では7割を下回っている。

⇒集団の中での適切な聞き方、話し方の指導を計画的に進め、発表する機会を意図的に設定する。

【小学校・中学校共通】

※『あてはまる、どちらかといえばあてはまる』と答えた割合が県平均より高い主な項目

□ 教育に関する3つの達成目標の「規律ある態度」に関する項目は、ほとんどの項目で県の目標値である80%以上達成できている。

□「友だちは自分の良いところを認めてくれている」「前学年の学級での生活は楽しかった」「県や住んでいる市町村の歴史や自然に関心がある」に関する項目はすべての学年で県平均を上回っている。

■「自分には、良いところがある」と答えている割合は、他の項目より低く、全ての学年で8割を超えていない。

⇒学校行事等の工夫改善を図り、自己有用感を味わうことができるようにする。

改善に向けた教育委員会の取組

- 様々な機会を捉え、各学校へ指導主事を積極的に派遣し、学習内容定着のための授業改善の方策を示し、実施状況の確認・見届けを行っていきます。
- 学力向上推進委員会等で、児童生徒一人一人の学力を伸ばす方策を検討し、各学校の取組みを充実させるとともに全市で共通理解を図った取り組みを推進します。